

未来に残す森林づくり～地域の連携で活性化するための人工林施策～

北海道釧路総合振興局産業振興部林務課
番藤 浩一

1. 課題を取り上げた背景

北海道釧路総合振興局では、国の「森林・林業再生プラン」、北海道の「森林資源循環モデル」などの施策目標を達成するため、管内市町村、森林組合などを構成員とした「釧路地域森林資源循環検討会」により、民有林における森林資源の循環利用を促進するため、平成 23 年度から、「低コスト森林施策について」をテーマとして検討を始めたところです。

また、国有林との情報交換や技術交流を目的に根釧西部森林管理署と「釧路地域林政連絡会議」を設置していますが、国有林の森林施策においては、高性能林業機械による作業システムと施策との組み合わせにより、安全性と効率性が向上されています。

一方、釧路市では、木材生産者から木材利用者までが参加する「釧路森林資源活用円卓会議」において、市有林の有効活用や地域材利用の拡大など、地域の林業・木材産業活性化に向けた検討が進められており、木材生産事業を継続的に実施しながら人工林の齢級構成を平準化し、森林資源の循環利用体制の確立をめざす「釧路市有林経営方針」の策定にも着手しています。

これら管内の状況をふまえ、民有林において森林所有者の合意形成を得ながら、長期的な視点で地域の特性に応じた森林づくりを進めるためには、国有林、市町村及び地域の事業者も交えて取り組むことが有効と考えました。

2. 取組みの経過

本年度の「釧路地域森林資源循環検討会」の取り組みでは、将来にわたり安定的に人工林資源を供給し続けるため、資源保続と齢級構成の平準化に配慮した人工林施策の方向性を提案し民有林の積極的な事業展開に結びつけるため、3回の現地検討会を開催しました。

第1回と第2回は、国有林における高性能林業機械による作業システムと、機械作業を前提とした列状間伐等の施策方法、さらに作業道作設方法について、根釧西部森林管理署から技術的な説明を受け、現地の実施状況を確認することで、今後の施策のひとつの方向性を示すこととしました。

第3回は、2回の国有林内における検討状況をふまえて、釧路市が検討し

ている「釧路市有林経営方針（案）」と、40年から50年を伐期として、間伐は「列状間伐」、主伐は「更新伐と樹下植栽の組み合わせ」を基本とする木材生産に資する森林の施策方針を題材に、釧路市有林、一般民有林、国有林の現地で意見交換を行いました。

3. 実行結果

釧路市有林では、カラマツ及びトドマツ人工林において、施策経歴、林況及び地況に応じた施策方法を検討しました。市有林49年生カラマツ人工林は、手入れ不足林分のため帯状更新伐を採用する方針です。伐倒費に対する造林補助金により収益が向上するため、一定の面積が確保される林分においては有利な施策方法で、機械作業による安全で効率のよい施策を提案できます。

37年生トドマツ人工林は、地形状況が劣悪で未整備となっている林分であることから積極的な施策は困難です。このような林分は、計画的間伐対象森林から除外する必要があると考えます。

一般民有林では、40m幅帯状更新伐の樹下植栽後の状況を確認しました。伐採幅を広く確保したことと伐採前地拵えにより作業効率が向上したとの報告がありました。また、植栽仕様については、間伐時の機械作業を前提として低密度植栽で伐採面の周囲5mも植栽しないなど、トータルコストの低減を提案することとしました。

国有林では、高性能林業機械による列状間伐の実施状況を確認し、確保する伐採幅や間伐率などについて検討しました。高性能林業機械と列状間伐の組み合わせが作業効率向上と労働安全環境の改善に有効であることが確認できました。

4. 考 察

人工林施策の方向性を検討するにあたり、国、道、市町村及び関係機関が組織の枠組みを超えて連携して取り組んだ結果、情報共有による現状認識と相互理解が進んだことから、民有林においても、関係者による取り組みの普及効果と実効性の向上が今後期待されます。

釧路管内は森林が比較的平坦であり、また酪農分野での間伐材利用が見込まれることなどから、高性能林業機械の導入による100%搬出型の施策、補助事業の積極的な活用と低密度植栽から始める林業のトータルコスト低減をキーワードに施策提案し、森林所有者の積極的な施策参加を促すことで、資源循環による林業の活性化に繋がりたいと思います